

平成28年度第1回福野地域審議会会議録

- 1 開催日時 平成28年9月23日(金)午後6時30分から8時40分まで
- 2 開催場所 南砺市福野庁舎(2階) 講堂
- 3 出席委員 14名 岩本 正、大塚千代、香川俊光、河合英子、栗山芳雄、澤田清治、仲村朋子、中村義章、長谷川和子、福富京子、古瀬正嗣、堀元榮信、水木 猛、向川正憲
- 4 欠席委員 1名 栗山雅明
- 5 市出席者 田中市長、齊藤市長政策部長、上口市長政策部担当部長、米田ブランド戦略部長、荒木市民協働部担当部長、市川南砺でくらしません課長、丸田福野行政センター長、田野行革推進係長、野村行革推進副主幹、丹羽福野行政センター次長、諸江福野行政センター主査
- 6 傍聴者 8名
- 7 協議議題 (1) 南砺市文化芸術振興基本計画について
(2) 庁舎再編に係る意見交換
- 8 その他 (1) 空き家調査の概要について
- 9 会議経過

○開会

事務局(センター長)から開会の宣言を行う。

○委嘱書の交付

新規委員に対し机上にて委嘱書を交付。

○会長、副会長の選出

会長に古瀬正嗣氏、副会長に栗山芳雄氏が選出される。

○会長挨拶

8町村が合併した南砺市は山間部と平野部で地域差が大きい。福野地域の活気を失わないように、若い世代が定住化を促進していかないと市の将来はないと思われる。庁舎の再編や病院のあり方などは市民の暮らしやすさといった観点から議論をしていただきたい。本日は、よろしくお願いいたします。

○市長挨拶

皆さん改めましてたいへんお忙しい中お集まりいただきまして、心から感謝申し上げます。地域の課題を市民の皆様から伺い、課題解決に向けた対策の進捗状況を年に一度、地域の皆様と協議する場として地域審議会が条例で定められている。合併から12年が経過し地域審議会も2年延長して開催している。合併後の「新町づくり計画」も10年から15年に延長して検討しているところである。当初の計画では10年で約320億円の合併特例債を計画的に使うというものであったが、東日本大震災の発生により東北地方も含め、10年の期間では特例債を有効に活用できない都市がでてきたため、5年の延長措置がとられることになった。これに伴い南砺市も平成31年までの15年計画を作成することにした。当初の計画では320億円の8割を10年で使うものであったが、延長措置を受け、15年で320億円の特例債を使い切るものに変更した。平成31年までは分庁舎方式いき、32年からは統合庁舎を建設する方針としている。昨年 of 公共施設の再編計画作成時に実施した市民アンケートによると、62%の市民が統合庁舎に賛成されていた。町づ

くりの計画にそって議論を重ね、32年を目処に統合庁舎、または新庁舎を建設する方向でいきたい。方法としては全く新しい建物を立てるパターンと既存の4庁舎の内のどれかを増築して使用するパターンを検討していきたい。それぞれのパターンを試算した資料をお示しし皆様のご意見をいただきたい。本審議会、市民の皆様、議会でのご意見を賜りながら方向を定めていきたい。文化芸術振興基本計画、山村振興計画についても計画を示し説明したい。どうぞよろしく申し上げます。

○協議議題

古瀬会長が進行しながら順次議事を進める。

(1) 南砺市文化芸術振興基本計画について

(米田ブランド戦略部長から「南砺市文化芸術振興基本計画 概要版」により概要説明)

(会長)

なにか、質問やご意見はございませんか。

(会長)

計画の推進主体として、資料6ページに文化芸術活動団体と記載されている。南砺地方は古くから唄いが盛んで各地区のいろいろな催しの折りに、必ず唄いが歌われてきた。城端の松本憲三氏(下掛宝生流ワキ方)、福野出身の能の大坪十喜雄氏など国指定重要無形文化財保持者らとの縁も深く、唄いや能は南砺地方の大切な文化といえる。しかしながら、若い人に伝承していかない現状がある。資料には、文化芸術活動団体とは、本市内に事務局を置く協会、保存会、実行委員会、団体等を指すとあるが、唄いや能の活動団体は該当するのか。

(米田部長)

ここでいう活動団体とは計画を推進する主体となる団体を指しており、大切な伝統である唄いはまさにこの定義に合致していますので、本計画で伝え残していくよう取り組んでいきたい。

(委員)

資料を読ませていただいたが表現が難しい、市民の方が読まれても理解できるよう、市民感覚の編集をこころがけていただきたい。

(米田部長)

今回示した資料は概要版であり、本編はもう少し分厚く、詳しく書かれている。表現が分かりにくい部分もあるため、推進実行にあたっては分かりやすく進めていきたい。

(委員)

実施計画にある計画推進時のワーキンググループの活動はすでに始まっているのか。

(米田部長)

現在、実施計画の策定にあたりワーキンググループ会議を行っているところである。計画の柱は基本計画として作成したが、それをどのように具現化していくか、6月にワーキンググループを立ち上げて検討を重ね、今年度中にはまとめたいたいと考えている。

(委員)

市にはいろいろ大きな文化活動があるが実施計画に従い事業を推進していくのか。

(米田部長)

事業を推進するというより、事業を推進しやすいよう環境を整備するという点に重きを

置いていきたい。

(委員)

昨年、美術連合が一つにまとまりよかったなと思っているところであるが、芸術文化団体はそれぞれ主義主張が異なっており、一つにまとまるということは難しい側面があると思われる。その難しい部分を手助けするようなマネジメントが計画の中にあると良い。

(委員)

福野では夜高祭にあたり地元の有志で文久の大作灯を作っているが、若い人が集まらない。行政から情報発信していただけたらもっと有志があつまるとは思われる。スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールドでは井波のアスモに若い人が集い大きい人形を作っていた。無償で自由に使える場所があり、有志がロコミで広まり、自由に集まることができれば広がりができる。行政のサポートがあれば良いと思う。

(米田部長)

資料では市民、活動団体、行政の3つの活動主体が記されているが、行政がどのような形で関わっていけるか実施計画の中で具体的に作り込んでいきたい。

(委員)

食文化ということで、福野の里芋まつりは今年31回を迎える。少しマンネリ化してきているのだが、昨年からは里芋を使ったスイーツを作ろうということ企画してきた。今年はお菓子屋さんをお願いして何種類か出していただくとしている。小学校にもお願いして、里芋の粉を混ぜた里芋パンを作ろうとしている。これらは商工会の企画になるのだが、行政は商工会に予算を出して、皆さんで事業をやってくださいというスタンスである。私たちがすれば福野地域のイベントという感覚である。旧福野町時代はアピールの広がりが速かったのだが、8町村が一つにまとまるとどうしても広がりが少ないと感じる。利賀のそば祭りや福野の菊まつりなどは全市あげて実施しているように見られる。それに比べると、里芋祭りはほんとに地域の一つの食文化のイベント。このような地域のイベントも早くアピールしていただけるものか、また、アピールそのものに対する補助が別についてくるものかお知らせいただきたい。

(米田部長)

里芋スイーツに新たに取り組まれることは、すばらしいことだと思う。補助金の使い方を定めるのが計画の目的ではなく、計画を実施するにあたっての問題解決の方向性を定めることが計画の目的になるため、補助金の使い途について具体的細部に踏み込むことはできないと考える。

(委員)

地域の新しいものを売り出すとき、うまくいけば良いが、うまくいかなければマイナスになる。大胆な発想がでにくい要因だ。そういった部分を補助するのが市ではないかと考える。そのための策定計画ではないのか。

(市長)

文化芸術と食文化はリンクするものと思われるが、スイーツをどこで誰が売のかということまで考えると、商工の分野になるので6次産業化の事業になる。そちらの方向からのサポートができる。

(委員)

部門が異なるということなのか。

(市長)

大きく異なることはないが、文化芸術はどちらかという、なくなりそうなものを保存していこうという意味あいのものになる。

(2) 庁舎再編に係る意見交換について

(上口市長政策部担当部長から「庁舎再編に係る意見交換会資料」により概要説明)

(会長)

皆様から忌憚のないご意見をお願いします。

(委員)

先日からの井口と福光での審議会の記事が新聞に掲載されていた。昨日の新聞には射水市の新庁舎のことが掲載されていた。人口は富山市、高岡市、射水市、南砺市の順、面積は富山市に次いで南砺市は2番目に位置している。南砺市は県下2番目の広い面積に人口密度の低い地域でないかと思う。新庁舎の基本構想にあたり、射水市は6つの町が一つになった。南砺は4町4村ということでよく似た考え方で参考になるのではないか。射水市は防災対策の拠点としての機能、コンパクト化、市民の利用しやすさ、時代の進展、環境に考慮して建てられたと伺っている。南砺市もこのような点を考慮すべきと考える。合併特例債の延長とともに32年を目標に検討を進めているところ、先日の議会では進捗が遅いのではと危惧されたが、計画は計画として進めていくべきであろう。

本日は福野地域の審議会ですので、福野地域の優位性についてアピールしておきたい。今朝の新聞記事では、コストを考えると福光を合同庁舎に考えた場合14億円の節約になるとされていた。福野の場合は60年の耐用年数という点では4庁舎の中で一番不利だ。しかし、耐用年数ばかりが重要という訳ではない。町づくりの観点として、福野庁舎周辺は土地区画整理事業により中心市街地をコンパクトに整備し、平成5年頃にはア・ミュージーンが完成した。町づくりにまだまだ余裕がある。福光庁舎を比較すると、後方に小矢部川、前方の国道304号の拡張工事があれば城端線はどうなるのかと、心配なところがある。付近の中心市街地の町づくりの条件としては不利と考えられる。また庁舎面積に関しても延べ床9千㎡の要件は5～6階建てにすればクリアできるが敷地1万1千㎡の要件は窮屈なのではないか。また、防災の観点からも平成20年には大雨による小矢部川の氾濫で福光大橋が通行できなかったことから心配される場所である。大きな災害は50年周期で起こる可能性を考えると防災拠点としての機能がはたせないのではないかとの思いがある。福野地域には砺波土木センター、砺波保険センター、福野高校、北陸電力砺波営業所、わらび学園など多くの施設が集まっているところも我々の誇りとするところである。このように福野地域は公共施設や公に類似した施設が多く利便性が高く人口減少の一番少ない地域である。30年後の人口減少率は資料によると福野が17%、福光が37%ということで20%の差があることを考えると、福野地域が一番南砺市では人口減が少ない地域といえる。消防は砺波、小矢部、南砺3市の広域圏で運用されているのだが、地理的中心は福野に近く有利なのではないか。このように、福野地域の利点を考慮していただき候補地をご検討いただければ幸いです。

(委員)

コストも含め非常に丁寧な比較試算資料であり、なるほどと納得もするのだが、もう一度、安心安全、利便性といった観点から総合的な比較表を作っていただき市民の皆様を示

していただきたい。

(会長)

防災・危機管理の観点から、昨年発生した鬼怒川の氾濫では48時間で440mmの雨が降った。岩手県の岩泉町では24時間で300mmを超える雨が降った。昨今の自然災害は従来の想定をはるかに超えた規模で発生している。小矢部川の豪雨の時も朝の6時から8時にかけての3時間で局地的に236mmの雨が降った。仮に小矢部川に豪雨が降り、小矢部川が満水になった時に川の近くに寄れるのか、危機管理の拠点として考えた時に不安がある。市が作成した浸水マップでは色塗りエリアに指定されていないが、あくまでシミュレーションだ。想定を超えた雨が降って、あちこちで浸水が起きている現状がある。安心できない。技術的に掘り下げて検証していただきたい。

町づくりの観点では、庁舎の周辺にいろいろなものをつくってくれと言っているわけではなく、民間が活用できる土地に余裕があるか、飲食店や商業店舗など民間が利用できる空間があるのかが重要だ。石川県庁が移転するときも地元の商店街が猛反対した。民間で活性化していくのが町づくりにつながっていくと考えられるので、周辺に開発余地があるのはどのエリアなのか、しっかり検証していただきたい。

(委員)

資料6ページの比較試算表2)に示されている不足用地購入費だが、福野庁舎を増築した場合は217,167千円、新統合庁舎を建設する場合は203,149千円とあるが、新統合庁舎の建設予定地と単価を知りたい。

(上口部長)

場所は想定しておりません。南砺消防署と東分署の平均単価を元に試算している。

(委員)

新しい統合庁舎を福野地域に建設していただきたい。

(委員)

人口減少について、30年後には福野が17%、福光が37%とされているが、8月末時点での人口は福野13,979人、福光は12,800人ということで福光は人口が減少している、福野は人口を維持していることが数字からわかる。30年度には福野が11,600人、福光が11,200人になると算定されている。旧福野地域は32平方kmのコンパクトな町だ。過疎地はどこにもない。人口密度も他の地域より高い。西から東にかけてひまわり保育園、福野小学校、マーシ園、青葉幼稚園、わらび学園などが整備されている。真ん中に公共施設が並び、二日町に新団地、周辺にも振興住宅が建ち混んできている。これは福野の中心部に近く、利便性が良いことから福野は人口が減らないのだと考えられる。勤め先もたくさんあり、就労人口も増加している。人は川と同様に上から下へ流れる。南砺市の人口減少を福野地域が抑えているという実状ではないか。砺波市に流れようとする人の流れを福野で抑えている。町づくりは金額だけではない。人口減少をいかにくい止めるかという点を考慮して計画をたてるべきではなからうか。

(委員)

従来の庁舎をあてにしない方が良いと思う。城端庁舎が建設されたのは昭和48年、井波が昭和51年、福野が昭和40年、福光が昭和62年ということで、古いものはすでに50年以上経過している。福野庁舎の増築は夢のない話だ。福光庁舎の増築は小矢部川や国道の関係でいかなものかと感じる。昨日、射水市の新庁舎が落成を迎えた。庁舎の統

合に向け、議員や委員の方々が一生懸命議論をしてきたのだと思う。射水市の新庁舎は6階建てで59億円かけたと聞く。海に近いこともあり、災害時には高層階に避難することも考慮しての6階建てなのだろう。個人的には福野周辺で、キッズコーナーがあるような市民のシンボルになる夢のある新庁舎を希望するが皆さんいかがでしょうか。

(会長)

ありがとうございました。皆さんご意見ございませんでしょうか。

(委員)

新統合庁舎は何階建てを予定しているのか。

(上口部長)

新統合庁舎は6階建てを予定している。

(委員)

合併から10年経過し各地域で人口が減少している。将来の推測として、20年後30年後の人口推移資料を作成していただき、今度の市民との意見交換会の席で配布していただきたい。

(上口部長)

わかりました。

(市長)

本審議会では委員の皆様からいろいろなご意見を伺った。資料の数字などだけで決めていくのではなく、このような席で皆様からいただいた貴重なご意見を総合してトータル的に丁寧に検討を重ねながら、議会にはかることも想定しながら進めていきたい。いろいろな角度からシミュレーションしていきたい。

(委員)

費用の面では新築も増築もあまり差がないように思われるが。

(市長)

耐用年数60年のライフサイクルコストということで考えると、結局、いつかの時点で庁舎を作ることになる。いつ作るか、どう作るかということ資料の比較表に示している。既存の庁舎のどこかに増築する場合でも30年程度の内には再建築が必要になる。

(委員)

8つが合併してどこかを残すということになると、つぶされたところの市民感情はとても面白くない。資料を見ると福野庁舎の増築はとても不利なように書かれている。子孫に負を残すような税金の無駄づかいはできないと説明されると、新庁舎を建てたいとは言にくかったのだが、市民のシンボルとして新庁舎があったら良いという意見もあることをご理解いただきたい。

(市長)

フラットな視点から検討を重ねていきたいが、市の財政を個人的な家庭に例えた話とすると、現在、家庭に貯金がいくらあって、どのようなローンが組めるかといったことを考えると、できるだけ貯金は崩したくないと考えている。皆様のご意見を伺いながらきちんと検討していきたい。

(委員)

都市計画上、庁舎が移転することによりいろいろな面での効果が期待できるのではないかと。

(市長)

現状の、4つの分庁舎体制でいくのは不可能な中で、既存庁舎を増築するのか、新築するのか、といったことを考えるとき、人の動きというものは当然考慮しなければいけないが、それぞれの町に魅力がある訳なので、庁舎の移転が町づくりの先頭に立つということではない。

(委員)

散居村がおおいので町の形態は大きく変わらないかもしれないが、人口減少を考えると、防災拠点としての側面や暮らしやすさの側面を考慮し、若い世代が暮らしやすい場所に集約して整備することを検討できないか。コスト面だけの話ではないように思われるが。

(市長)

それぞれの町の皆様の感情が交錯すると難しい面もあるが、具体的に、市民の皆様が庁舎をどのくらい利用なさるのかということもある。それ以上に庁舎周辺にどれだけ民間事業者が集まるか、大きな関連がある。逆に、庁舎がある場所以外でも民間事業者の利用を考えることはできるであろう。城端、井波、福野、福光の既存のどこかの庁舎を増築するならば、不要になった建物をどうするか、民間の企業が新しく建て直し活用していただけるか、もしくは、町中に今まであった施設をどこかに集約し、空いたところに新たに用地を確保するか、いろいろなことが決まった後に町づくりの核として、計画を立てていくことが必要だろう。

(委員)

南砺市の地図を頭に入れ、地理的な面からも検討いただきたい。新庁舎は町の中心になっていくので防災機能は大切にしていきたい。

(市長)

道路網など、町づくりとしていろいろと付随してあるため総合的に検討したい。

(会長)

グーグルマップでは南砺市役所が福光の庁舎上に表示され、福野庁舎は福野行政センター、他の庁舎も行政センターと表記されている。新庁舎は福光に決定したのかと思われる。

(市長)

グーグルマップを確認した訳ではありませんが、グーグルに市から申請した訳ではありません。

(会長)

庁舎再編について、非常にたくさんご意見を伺った。福野地域周辺を中心とした町づくりをしていただきたい。現庁舎を活用した増築計画につきましては危機管理を重視し、空間の活用につきましては行政で物を作るというよりも民間の活力を活かすことができるよう、しっかりと検証していただきたい。また、30年後の人口減少の度合いと就労人口を検証し、将来的に、どの地域が中心になっていくのか検証していただきたい。既存庁舎の増築もよいが、一方で夢がある新庁舎の建設を要望するご意見もあった。市長の6月議会の答弁にもあったように、既存庁舎の活用の方向で行くといった流れで議論が進んだ面がある。ただ、トータル的に考えると、新庁舎の建設もあるといったご意見もでてくると思われる。福野地域は人口減少の少ない地域のため、将来的に市の中心になっていくであろう。広域連携の観点からもご検討いただき、議論を深めていただければ幸いです。

事務局(センター長)

ありがとうございました。議題の議論につきましては、以上でございます。引き続き、「その他、空き家調査の概要」につきまして、荒木市民協働部担当部長からご説明いたします。

○その他

(1) 空き家調査の概要について

(荒木市民協働部担当部長から「空き家調査について資料」により概要説明)

事務局(センター長)

委員の皆様、ご意見がございましたらお願いいたします。

(委 員)

空き家を調査いただくことはありがたいことである。私どもにも空き家があるが、すごく大きな旧家で、家の方はすでに亡くなられ、お嫁さんだけが他県におられ管理に困っている。このような案件に対しても何か指針が示されるのか。例えば、市での買い上げや、旅館として利用するなど検討できないか。人が住まなくなると20年ほど経過している状態で困っている。

(市 長)

今回の空き家調査は国からの補助金に係るための一般的な調査で計画をつくるためのものである。個別的な相談案件について市で購入することは無いが、問題解決に向け担当部署である南砺で暮らしません課と相談させてください。

(委 員)

古家を壊すにしても何百万円もかかる話でたいへん困っている。

(荒木市民協働部担当部長)

難しい問題もからみ、簡単に片づくものではないと思う。南砺で暮らしません課でいろいろな相談を受け付けているので、ご相談いただければと思う。

(市 長)

南砺で暮らしません課の方から個別に連絡させていただき、前に進めさせてください。

事務局(センター長)

委員の皆様、他にご意見等ございませんでしょうか。

それでは、最後に栗山副会長様から閉会の挨拶をお願いいたします。

○副会長挨拶

長時間にわたりご審議いただきありがとうございました。各委員の皆様から熱い、真剣なご意見を頂戴しました。これらの意見を市の方で集約していただき、良い方向に着地できますよう期待しております。本日はどうもありがとうございました。

○閉会

事務局(センター長)から閉会の宣言をする。